

LE FANTÔME DE LA LIBERTÉ

SERGE SILBERMAN
présente

ルイス・ブニエル監督作品

自由の幻想

何者のしわざか?!
現代フランスに起る
不可思議連続事件——
自由の亡霊が呼ぶ
超逆転世界!
巨匠ブニエル
華麗なイメージ・ゲームの
最高峰!

(登場順)
ベルナール・ヴェルレー
ジャン・クロード・ブリアリ
モニカ・ウィッティ
アドリアーナ・アスティ
ミレナ・マコティッチ
ミシェル・ロンズタル
マリ・フランス・ピジエ
ジャン・ロシュフォール
ジュリアン・ベルト
ミシェル・ピコリ

監督ルイス・ブニエル
脚本・脚色・台詞ルイス・ブニエル
+ ジャン・クロード・カリエール
撮影エドモン・リシャール
美術ピエール・キュフロフ
録音ギイ・ウイレット
音構成ルイス・ブニエル
編集エレーヌ・プレミアニコフ
衣裳ジャクリーヌ・キュイヨ
製作主任ウリ・ビカル
製作セルジュ・シルベルマン
GREENWICH FILM PRODUCTION
カラー作品(フランス映画)

ハウ・シリーズ
フランス映画社提供



Ferracci

自由の幻想

●ルイス・ブニエルの監督作品

LE FANTÔME DE LA LIBERTÉ

カラー作品
フランス映画

パウ・シリーズ
フランス映画社
提供

瞬間の人間たち。ブニエルは、そこからもう一歩踏みこんで、正常と異常は一体誰が決めるのか、と切り返す。問いの答えはまた別の問いをよび、謎は謎を生む。ブニエルが仕掛けた空前絶後のイメーজ・ゲームは、見るものすべてを神秘の宇宙空間に誘ひ、鋭く研ぎすまされた切り口とユーモア混じりの語り口で描かれていくのは誰も想像すらできなかった不思議世界。

発端は1808年のスペイン、トレドの町。自由を掲げるナポレオン軍に銃殺される人々の叫ぶ声は、「自由くたばれ！」



「自由の幻想」は、完全に自由な映画をつくる」と宣言したルイス・ブニエルが、1974年に発表した野心作。

「銀河」(68)で教理への盲信を、「ブルジョワジーの秘かな愉しみ」(72)で「偶然」に中断される食欲への盲従を、ときには時の壁を飛びこえ、ときには夢と現実の境を取り払って描いてきたブニエルが、三部作の最後に撮ったこの作品では「自由」そのものに向きあう。偶然が支配するこの世界で、「自由」という名の実体のない「亡霊」に踊らされて右往左往する人々。社会の正常な規範からズレた

妹が墓地からかけてくる電話、ひとりしかなかったはずの監視総監がなぜかふたりいる不思議な局面など。次々に繰りひろげられる超現実のイメーজの炸裂に、不思議・大好き人間「ならずとも、超逆転世界にすっかり魅了されてしまおう」。

発表からすでに10年をへたりバイバル公開だが、ブニエル自ら「野心作」と公言した作品にふさわしく、まさに現在に標的を合わせて作られたのではと錯覚しそうな新鮮さ、奔放な自由さ。今、時限爆弾が爆発したように強烈無比な、時間の壁を超えた傑作である。

舞台は飛んで、自由の国フランス。現在のパリ。公園でスペインの怪奇な物語を読んでいる女中たちから始まって、登場人物のしりとりで話が進むにつれ、次から次へと奇想天外な事件が連なっていく。

パリの名所絵葉書を見て性的興奮にかられる夫妻、真夜中の寢室を訪れる郵便配達、キツネ一匹を追いまわす戦車部隊、お祈りが終われば何をしてもいいのだとボー・カーに興じる修道僧達、食事と便事(?)が逆転した奇妙な教授の体験、行方不明の少女を、当の少女を連れて捜索する父親と警察、死んだはずの

【スタッフ】

監督……………ルイス・ブニエル
脚本・脚色・台詞……………ルイス・ブニエル
ジャン＝クロード・カリエール
撮影……………エドモン・リシャール
美術……………ピエール・ギュフロワ
録音……………ギイ・ヴィレット
音構成……………ルイス・ブニエル
編集……………エレヌ・プレミアニコフ
製作……………セルジュ・シルベマン

【キャスト】(順序は登場順)

竜騎兵隊の大尉……………ベルナル・ヴェルレー
アンリ・フーコ……………ジャン＝クロード・ブリアリ
フーコ夫人……………モニカ・ウィッティ
寝室の黒衣の女……………アドリアーナ・アスティ
看護婦……………ミレナ・ヴコティッチ
マゾの帽子屋……………ジャン・ロンスダール
リシャール・ルジャンドル……………ジャン・ロシュフォール
監視総監……………ジュリアン・ベルト
もうひとりの監視総監……………ミシェル・ピコリ
GREENWICH FILM PRODUCTION (パリ) 製作/1974年度
作品/フランス映画/イーストマンカラー/ヴィスタサイズ(1×1.66)/1時間44分/6巻・2,846m

この奇想天外な三部作を製作した破天荒なプロデューサーは、ブニエルの親友で彼の最高の理解者だったセルジュ・シルベマン。そして「小間使の日記」(63)以後のほとんどの作品に脚本協力したジャン＝クロード・カリエールが、脚本・台詞に名を連ねている他、撮影のエドモン・リシャール、美術のピエール・ギュフロワ、編集のエレヌ・プレミアニコフなど「ブルジョワジーの秘かな愉しみ」以降、不動のスタッフが最高の技術を披露する。

キャストは、アントニオ・ニオーニの「情事」でいきなり国際的なスターの仲間入り、アントニオ・ニオーニ作品のヒロインから、最近ではコメディーまで芸域の広いイタリアの大スター、モニカ・ウィッティ、「いとこ同志」女は女であるなど主演作多数、映画監督に舞台演出まで手掛ける才人ジャン＝クロード・ブリアリ。ベルトルッチの「革命前夜」のヒロイン、妖艶なアドリアーナ・アスティ、「大盗賊」「カトマンズの男」などの名優で、舞台でも活躍するジャン・ロシュフォール、「ジャックカルの日」薔薇のスタビスキーなど渋い演技で知られるミシェル・ロンスダール他豪華なゲスト・スター連に加え、「銀河」のキリスト役ベルナル・ヴェルレーが神を冒瀆する竜騎兵大尉役など、隅々までブニエル好みの名優ぞろい。

夢と超現実の祭典
ブニエル代表作
連続ロードショー

第2弾 9月公開!

同時上映「ビリディアナ」

国電有楽町駅・中央口・銀座側

有楽シネマ (2061)

月・土	ビリディアナ	11:10	5:05
	自由の幻想	11:15	3:10
日・祝	ビリディアナ	12:30	4:25
	自由の幻想	10:35	2:30

共通特別鑑賞券1200円

好評発売中! (当日一般1500円(の処) 大・高生1300円)

10月公開 第3弾「哀しみのトリスターナ」
同時上映「小間使の日記」

巨匠ブニエルの遺作、日本初公開/10月ロードショー

「欲望のあいまいな対象」 有楽町スバル座